

研究主題

「生きる力を育む稲作体験学習」～小中連携を通して～

1. 単元名 稲作体験学習

2. 指導観

- 本学級の生徒は、男子14名、女子15名の計29名であり、何事にも意欲的に取り組み、明るく活発な学級である。稲作体験学習を行う上で、生徒を主体とした稲作実行委員会を初めて立ち上げたところ多数の立候補者があり、これまでの取組を自分たちの手で作り上げようとする気持ちをもつ生徒が多い。10月には小中合同事前学習を体育館で実施し、実行委員が道具の使い方や稲の刈り方、結び方など、実際に道具を使って実践しながら説明を行った。グループ学習でも道具や写真などを使って小学生に分かってもらえるように言葉を選びながら説明をしている姿が見られた。また、小学生も一生懸命に聞く姿を見ることができた。この時間の交流が、その後の稲刈りの活動に生かされたと振り返っている。
- 八児校区は、山・川に囲まれた緑豊かな自然をもった地域である。農業に従事している家族をもつ子どもたちも見られる。昨今、この我々の生活を支える第1次産業への従事者が減少している中、これらの仕事の素晴らしさを子どもたちに気付かせるとともにこの自然を自分たちの手で残していこうという気持ちを育てることは大切なことである。「米」は言うまでもなく日本人の主食であり、様々な環境や文化に大きく影響を及ぼしている。食糧生産や食糧の確保、食の安全性などの今日的な問題も多く含んでいる。生徒の家庭では農業よりも他の産業に携わっているところが多いが、食糧生産にかかわるといってこれらの問題点への関心も高いものがある。「米」についてより詳しく学ぶことは、わたしたちを取りまく食や環境、外国との関係など多くの問題を身近なものとして考える契機になると思われる。また、実際に稲作を体験することは、食物に対する感謝の気持ちや働くことの尊さなどを感じ取れる貴重なものであり、これからの生徒の生活に少なからずよい影響を与えるものと考えられる。本単元では「米」という身近な素材を通して、自分自身だけでなく地域社会や日本、外国など視野を広げて考えられていくものである。更に、農業に従事する人たちの工夫や苦勞を身近なものとして感じることが出来る。また、植物の生態調査や稲の生育の様子の観察、収穫した米の使途など、様々な面で生徒たちの主体的な活動が期待できるものである。代掻き・田植え・稗取り・稲刈り等の体験は、地域の方々とともに行った。このように地域との連携を図りながら、連続的かつ発展的な学習活動を行うことも大切である。様々な体験活動や地域の方々との関わりから、豊かな自然に囲まれた八児の良さを理解し、自分たちの手で未来に残していこうとする気持ちをもたせたいと考え、本単元を設定した。
- 指導にあたっては、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」となる探究のプロセスに沿った指導を行う。「課題の設定」では、問題発見を促すための体験的活動を位置づけ、教師や地域の方々側からの問題提示など、生徒が関心や疑問をもち、さらに追究したいと思えるような問題との出会わせ方について工夫する。「情報の収集」「整理・分析」では、その問題の解決のための情報を教師や地域の方々の話や文献、インターネット等を使って、より多くの情報を収集させ、それを分析させる。「まとめ・表現」では、体験で感じたことや調べた結果をレポートや新聞、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現させたりする。その際、だれに何を伝えるのかという相手意識をもたせるとともに、聞き手側にも相手が伝えたいことや相手の発表の優れた点など自分の発表と比較しながら聞くことができるようにする。

3. 本単元における主体的・対話的で深い学び・学習評価の工夫

○ 主体的・対話的な学びの工夫について

「探究課題の設定」の場面や「情報の収集」・「整理・分析」の場面、「まとめ・表現」の場面それぞれで、グループによる「話し合い活動」を取り入れる。「話し合い活動」において自分の意見を主張したり、他者の意見を聞き入れ自分の考えに取り入れたりすることで、自ら学ぶ主体的な学習へと結びつけ、次の活動への意欲につなげていく。

○ 学習評価の工夫について

自己の考えや表現の変容を自覚させ、自己評価の力の育成のために、体験や話し合いの後にはワークシートに感想を記入させる。その際に、一人一人の思いを大切にするために自由記述とし、自分の体験の意味づけをしたり、次の活動への見通しをもったりできるようにする。また、ワークシートから生徒の思いや願いを知り、朱書きなどで、一人一人の意識に沿った支援ができるように努める。さらに、学習活動の過程や成果などの記録を計画的に集積するなど、パーソナルポートフォリオによる個人能力の総合的な質的評価も行う。

4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫と手だて

別紙参照 ※別紙については、協議会后、回収します。

5. 目標

課題解決に向けた学習への 関心・意欲・態度 【関】	○ 学習内容に関心をもち、意欲的に調べ、進んで学習に取り組もうとする。 ○ 稲を育てたり、米や日本食文化のよさを多くの人に発信したりすることについて、自分なりの課題をもち、解決しようとする。
学び方・表現する力 【学】	○ 課題探究の計画を立て、自分なりの手段を選び、最後までやりきることができる。 ○ 課題について調べたことを基にして、様々な方法で自分の考えをまとめることができる。
他者や社会との関わり 【他】	○ 課題を解決するために必要な情報を選択・活用し、相手の考えを認めたり自分の考えに取り入れたりして、深い学びにつなげようとすることができる。

6. 指導計画と評価計画（総時数 12 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1. 課題の設定 ③ ・ 稲作に関するアンケート結果や地域の方からの講話等から稲作に対する関心を高める。 ・ 昨年度までの体験活動を基盤に何が課題であるのか、どのように活動を行っていくのかを考える。 ・ KJ法を利用し、自分たちが取り組みたいことや調べたいことを整理し、探究課題を設定する。	○ 稲作体験活動に関するこ とで、自ら課題を見いだす ことができるようにする。	【関】 アンケート結果を通し て、稲作に関して自分の課 題を設定している (様相観察) 【学】 課題解決に向けて、意 欲的、主体的に取り組んで いる。 (様相観察・ワークシ ート分析)

<p>2. 情報の収集 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットや文献などから稲作活動全般の情報を収集する。 ・ 地域の農家の方や農協の職員の方等にインタビュー調査を行う。 ・ 昨年度までの稲作体験学習からアンケートを利用して情報を収集する。 	<p>○ 課題解決に必要な情報をどのように得ることができるか考え、見通しを持った情報収集をし、多角的・多面的に分析できるようにする。</p>	<p>【関】 課題解決に向けて、意欲的、主体的に取り組んでいる。 (様相観察)</p> <p>【学】 課題解決に必要な情報を収集している。 (ワークシート分析)</p>
<p>3. 情報の整理・分析 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの体験した内容や資料等を図や表などを利用して整理する。 ・ 「考えるための技法」を活用して、情報を分類したり、比較したりするなどの整理・分析し、自分たちができていることを考える。 ・ 「話し合い活動」の中で、各グループの発表会を行い、意見を集約して修正案を考える。 	<p>○ 「話し合い活動」を通して、相手の考えを理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるようにする。</p>	<p>【他】 意見を尊重し、お互いに考えを深め合い、協働的に問題の解決をしている。 (様相観察)</p> <p>【学】 収集したその情報を多角的、多面的に分析している。 (ワークシート分析)</p> <p>【関】 情報の整理・分析に向けて、意欲的、主体的に取り組んでいる。 (様相観察)</p> <p>【他】 他者の意見や考えを受け入れるとともに、自分の考えを正確に伝えている。 (様相観察)</p>
<p>4. まとめ・表現 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲作体験学習の総括を行い、「自分たちでできたこと」「自分たちができていること」を確認する。 ・ 稲作体験学習で学んできたことを新聞にまとめ、自分の学級や他学年、地域の方に発信する。 	<p>○ 情報収集した内容や自分の考えを、相手や目的に応じてわかりやすく説明できるようにする。</p>	<p>【学】 収集した内容や自分の考えを分かりやすく、まとめ、表現している。 (発表・様相観察)</p> <p>【他】 意見を尊重し、お互いに考えを深め合い、協働的に問題の解決をしている。 (様相観察)</p> <p>【関】 活動を通して、次の課題を見つけだそうとしている。 (様相観察)</p>

6. 本時の学習 平成29年11月30日(木) 第5校時 図書室

- (1) 主眼 稲作体験学習を振り返る活動を通して、「生きる力」を育むことができるようにする。
 (2) 準備 パソコン, スクリーン, 模造紙, ペン, 付箋(赤, 青, 黄), ホワイトボードなど
 (3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価基準(評価方法) ★ 特別な教育的支援を要する児童・生徒への特に困難とされる場面での支援のポイント
1. 本時のめあてを確認する。	○ 本時の流れを提示し, 稲作体験学習の振り返りについて, 見通しをもつことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて これまでの稲作体験学習を振り返ろう。</div>	
2. これまでの稲作体験学習を映像・写真で振り返る。	○ 中学校の稲作体験学習の振り返りでは, 稲作実行委員会を中心に, これまでの取組について映像や写真もとに全体に発表し, 振り返ることができるようにする。 ○ 小学校の稲作体験学習の振り返りでは, グループを3つに分けて, 紙芝居形式でそれぞれ発表し, 振り返ることができるようにする。
3. 稲作体験学習についてよかった点, 反省点, 改善点を話し合い, 発表する。	◎ 個人で考える時間を十分に確保し, 良かった点, 反省点, 改善点について, できるだけ多くの考えがでるようにする。 ◎ それぞれ付箋紙に考えを書いて, 模造紙にはりながら KJ 法により整理・分類してまとめることができるようにする。 ★ 個人で考える段階で表現が難しいことが予想されるため, これまでの活動を改めて振り返らせた後, 付箋にキーワードだけでもいいので書くよう助言する。 【他】班で協力して<よかった点><できなかった点><改善点>などに班員の意見を参考に分類して, 模造紙にまとめている。 (発言分析, 様相観察)
4. 本時の振り返りを行い, 収穫祭に向けた取組を話し合う。	○ 各グループで良かった点, 反省点, 改善点をまとめた模造紙を活用して, 本時の振り返りができるようにする。 ○ 小学生が授業で作成した収穫祭の提案書をもとに, 次時の学習(収穫祭)の見通しをもつことができるようにする。

ご指導よろしくお願いたします。 八児中学校職員一同

研究主題

総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価のあり方
～地域の特色を生かした八児学びプロジェクトの推進～

1. 単元名 稲作と産業（第6次産業の視点から）

2. 指導観

- 八児校区は、山・川に囲まれた緑豊かな自然をもった地域である。昨今、この我々の生活を支える第1次産業への従事者が減少している中、これらの仕事の素晴らしさを子どもたちに気付かせるとともにこの自然を自分たちの手で残していこうという気持ちを育てることは大切なことである。

「米」は言うまでもなく日本人の主食であり、様々な環境や文化に大きく影響を及ぼしている。食糧生産や食糧の確保、食の安全性などの今日的な問題も多く含んでいる。食糧生産にかかわるといふ点で、これらの問題点への関心も高いものがある。

「米」についてより詳しく学ぶことは、わたしたちを取りまく食や環境、外国との関係など多くの問題を身近なものとして考える契機になると思われる。また、実際に稲作を体験することは、食物に対する感謝の気持ちや働くことの尊さなどを感じ取れる貴重なものであり、これからの生徒の生活に少なからずよい影響を与えるものと考えられる。本単元では「米」という身近な素材を通して、自分自身だけでなく地域社会や日本、外国など視野を広げて考えられていくものとする。

更に、農業に従事する人たちの工夫や苦労を身近なものとして感じることが出来る。また、植物の生態調査や稲の生育の様子の観察、収穫した米の用途など、様々な面で生徒たちの主体的な活動が期待できるものである。代掻き・田植え・稗取り・稲刈り等の体験は、地域の方々とともに生徒主体の中で行っている。このように地域との連携を図りながら、連続的かつ主体的な学習活動を行うことも大切である。様々な体験活動や地域の方々とのかかわりから、豊かな自然に囲まれた八児の良さを理解し、自分たちの手で未来に残していこうとする気持ちをもたせたいと考え、本単元を設定した。

- 本学級の生徒（男子16名、女子12名の計28名）は、真面目にかつ真剣に学習及び学校行事等に取り組む生徒が多く、平素から意欲的に授業に臨む雰囲気をもっている。特に本校独自の『稲作体験学習』に向けては2年次から「稲作実行委員会」を立ち上げ、その4名の生徒を中心にして企画・運営を行い、これまでの取組を自分たちの手で作り上げようとする気持ちをもつ生徒が多数いる。今回は文化発表会の練習と同時並行で、「稲作と産業」のまとめの学習を行うなかで、各班それぞれがパソコンに向かい、一生懸命に努力している姿が見受けられた。

本学級の生徒は、各教科の授業での話し合い活動の成果が表れ、自分の意見を考えたり表現したりすることが、少しずつではあるが上達している。しかしながら、資料を基に考察、追究したり他者の意見と比較しながら自分の意見を述べることは苦手であるように思われる。そこで、技術・家庭科で学んだパワーポイントを取り入れた稲作体験の総括となる学習を通して、自分と同じ考え、違う考えを取り入れながら、様々なことを考察し、実践できるように指導していきたい。

- 以上の単元や生徒の実態を踏まえて次のように指導する。

(1) 探究のプロセスの在り方について

① 課題設定の工夫〔課題追究能力の育成〕

問題発見を促すために社会科の授業で「米」と「産業」の関連性を位置づけ、教師や地域の方々からの問題提示など、生徒個人が関心や疑問をもち、さらに追究したいと思えるような問題との出会わせ方について工夫する。そして、同様の課題を設定した生徒のグループを形成し、グループの課題へと移行していく。

② 情報の収集、整理・分析の工夫

その問題の解決のための情報を教師や地域の方々の話、株式会社「もち吉」の社員の講話、農業科のある高校の出前授業、文献やインターネット等を使って、より多くの情報を収集させ、それを分析するための「話し合い活動」を様々な形態で充実させる。

③ まとめ・表現の工夫〔思考力・表現力の育成〕

体験で感じたことや調べた結果をレポートや新聞、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現させる。その際、だれに何を伝えるのかという相手意識をもたせるとともに、聞き手側にも相手が伝えたいことや相手の発表の優れた点など自分の発表と比較しながら聞くことができるようにする。

(2) 実態把握と評価の工夫

① 自己の考えや表現の変容を自覚させる評価の工夫〔自己評価の力の育成〕

レクチャーや話し合いの後にはワークシートに感想を記入させる。一人一人の思いを大切にするために自由記述とし、自分の体験の意味づけをしたり、次の活動への見通しをもったりできるようにする。また、ワークシートから生徒の思いや願いを知り、朱書きなどで、一人一人の意識に沿った支援ができるように努める。

② 生徒・保護者の意識調査とその変容の把握

活動の事前・事後には生徒を対象に意識調査やスクールプランのアンケートによる調査を実施し、その結果の分析を行い、変容を把握し、さらに充実した活動にするために改善を図る。また、学校評価のアンケート調査の中で保護者の願いや要望を把握する。

3. 単元の概要

(1) 単元の目標

- ・ 学習内容に関心をもち、意欲的に調べ、進んで学習に取り組もうとする。
(学習への意欲)
- ・ 米や日本食文化のよさや多様性を多くの人に発信したりすることについて、自分なりの課題をもつことができる。
(課題発見力)
- ・ 課題探究の計画を立て、自分なりの手段を選び、最後までやりきることができる。
(課題探究力)
- ・ 課題を解決するために必要な情報を選択・活用し、相手の考えを認めたり、自分の考えに取り入れ、深い学びにつなげようとするすることができる。
(収集力、分析力)
- ・ 課題について調べたことを基にして、様々な方法で自分の考えをまとめる。
(表現力)
- ・ 自分の成長や仲間のよさを認める
(評価力)
- ・ 活動を通して、次の新しい課題を設定し、それを探求しようとする。
(学習に向かう力)

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 稲作体験活動を行うことで、米への興味を示し、産業との関連について、自らの課題を見いだす。
- イ 課題解決に必要な情報を、どのように得ることができるかを考え、見通しを持って情報収集をする。また、多面的・多角的に分析し、それらを整理する。

- ウ 情報収集した内容や自分の考えを,相手や目的に応じてわかりやすく説明する。
【自分自身に関すること】
 エ 課題解決に向けて,意欲的,主体的に取り組む。
 オ 活動を通して,次の課題を見つけ出そうとしている。
【他者や社会との関わりに関すること】
 カ 「話し合い活動」を通して,相手の考えを理解し,相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝える。
 キ 協働的に問題の解決を行う。

(3) 単元の評価の規準

	学習方法	自分自身	他者や社会との関わり
単元の評価規準	① 米と産業の関連について自分の課題を設定している。【(2) -ア】 ② 課題解決に必要な情報を収集し,その情報を多面的・多角的に分析している。【(2) -イ】 ③ 収集した内容や自分の考えを分かりやすくまとめ,表現している。【(2) -ウ】	① 課題解決に向けて,意欲的,主体的に取り組んでいる。【(2) -エ】 ② 活動を通して,次の課題を見つけだそうとしている。【(2) -オ】	① 他者の意見や考えを受け入れるとともに,自分の考えを正確に伝えている。【(2) -カ】 ② 意見を尊重し,お互いに考えを深め合い,協働的に問題の解決をしている。【(2) -キ】

4. 指導・評価計画

過程	時数	学習活動	評価規準及び方法	
課題設定	3	○ 稲作に関するアンケート結果や稲作体験活動等から稲作に対する関心を高める。 ○ 第6次産業をキーワードに,米との関連がどのように存在しているのかを考える。 ○ KJ法を利用し,自分たちが取り組みたいことや調べたいことを整理し,探究課題を設定する。	学① 自①	行動観察 発言観察 ワークシート (付箋紙等含む)
情報収集	3	○ パソコンや文献などから第6次産業の視点に関連した米についての情報を収集する。 ○ 株式会社「もち吉」の社員のレクチャーや農業科の高校先生の出前授業から自分たちの課題に適した情報を収集する。	学② 自①	行動観察 ワークシート
整理・分析	3	○ 「考えるための技法」を活用して,情報を分類したり,比較したりするなどの整理・分析を行い,自分たちができることを考える。 ○ 「話し合い活動」の中で,各グループの発表会を行い,意見を集約して修正案を考える。	学② 自① 他①②	行動観察 ワークシート
まとめ・表	3	○ 整理・分析した結果から「自分たちでできたこと」「自分たちができること」をまとめる。 ○ 自分たちの探究課題の解決のために,根拠を示して,自分の学級やグループ,後輩に発信する。	学③ 自② 他①	行動観察 ワークシート

現	○ 米と産業の関連についての総括後，新しい課題を設定し，確認する。	②
---	-----------------------------------	---

5. 本時の学習 平成30年12月5日(水) 第5校時 図書室

- (1) 主眼 稲作と産業の関連について調べたことを発表し、質疑応答する活動を通して、次の探究課題を見つけ、設定することができるようにする。
- (2) 準備 パソコン スクリーン（必要に応じて模造紙 ホワイトボード等）
- (3) 展開

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(方法) ★教育的支援を要する生徒への留意
1. 今年度の稲作体験活動についての振り返りを行う。	○ 年間の体験を映像で振り返ることにより、アンケート結果のまとめ等を視覚的に理解できるようにする。 【学①自①】（態度・表情）
2. 本時のめあてを確認し，各班の課題（テーマ）を発表する。	○ 稲作実行委員の指示により、発表者が主体的に進めることができるようする。 【学①自①】（態度・表情）
めあて 稲作と産業の関連について，各グループで調べたことを発表し，さらなる課題を見つけよう。	
3. 各班の課題（テーマ）について調べたことを発表する。	◎ 発表に対しての質問及び意見に関しては，個ではなくグループで考える時間をとることにより，対話的な活動の充実を図るようにする。 ★ 授業者及び学年職員が机間巡視し、助言及び支援することにより、発表や話し合いの内容を理解できるようにする。 【自①他①②】（発表内容・態度・表現方法）
4. 班に出された質問や意見を基に、次の課題を見つけ設定する。	○ 質問や意見等が与えられなかったグループは自分たちの発表を振り返ることにより，次の課題の設定ができるようにする。 【自②他①②】（振り返りシート）
5. 本時の授業の振り返りを行い，収穫祭に向けた取り組みを確認する。	○ 今までの取り組みについて振り返りを行うことにより，最後の行事になる収穫祭に向けて志気が高めることができるようにする。

ご指導のほどよろしくお願いいたします。

生きる力をはぐくむ総合的な学習の時間の指導の充実
～探究的で協働的な学習を通して～

1. 単元名 八児のお米 う米売（うまいばい）プロジェクト

2. 指導観

- 本学年の生徒（男子23名、女子29名の計52名）は、学習や学校行事等に積極的に取り組む生徒が多い。特に本校独自の『稲作体験学習』については、1年次から「稲作実行委員会」を立ち上げ、生徒を中心に企画・運営を行ってきた。これまでの取組を自分たちの手で作り上げようとする気持ちをもつ生徒が多数いる。

しかしながら、北九州市学力・学習状況調査によると、本学年の生徒は「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目では、「はい」が1年時62.5%、2年時70.5%と高くはなっているが、市の平均より1.5ポイント下回っている。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」の項目では、「はい」が1年時73.0%、2年時68.2%と下がり、市の平均より6.6ポイント下回り大きく差が開いた。このことから、本学年の生徒は、自尊感情と新しいことに挑戦しようとするチャレンジ精神に課題をもっていることがわかる。

- これから生徒が活躍する近未来の社会においては、グローバル化・情報化がすすみ、さらには人工知能（AI）の進化により、日本の労働人口の約5割がついていない職業において、AIやロボットなどによって代替することが可能との推計結果が野村総合研究所とオックスフォード大学との共同研究より出されている。このことから、10～20年後の社会において求められる人材とは、① 様々な問題に自ら立ち向かうチャレンジ精神をもっている、② 問題解決に向けて多様な思考をもつ他者と協働する、③ ①②を通して最適な解決方法を導き出す問題解決力をもっている、以上の3点の力をもった人材と考える。

本単元では「会社の設立」「販売に向けての活動」「販売活動」「決算活動」などの企業プロセスの中で課題を設定する。その解決に向けて具体的な計画を立て、実行することができる力を身に付ける。さらに、主体的に判断し仲間と協働する姿勢や、主体的にチャレンジしようとする意欲を育み、今後の生き方について自覚を深めていくことを主なねらいとする。販売に向けた取組の中で、自ら課題を設定し解決していくプロセスの中で、幾多の達成感や成就感を味わい、様々な問題や失敗を経験し乗り越える力を身に付けることで、自尊感情が高まり、新たな物事に挑戦しようとするチャレンジ精神も高まるのではないだろうか。

- 指導に当たっては、米を販売するために、仮想の会社を起業して、各会社の中で部署を設け、生徒が主体的に活動に取り組むきっかけとする。次に、起業された社会人の方をゲストティーチャー（GT）として招き、販売に向けたノウハウや仕事のやりがいや大変さ、面白さを語ってもらい、生徒の関心を高める。また、生徒自身が抱いた疑問とGTのアドバイスをもとに、各部署で販売に向けた課題を設定する。これらの活動を通して、同じ部署や会社の仲間とコミュニケーションを深め、自分の役割を自覚しながら互いの考えを理解できるように、部署会議や会社会議を多く設定する。発表においては、相手意識を明確にもたせ、プレゼンテーションソフトやクリップボード、写真、グラフ、図などを用いることにより、聞き手側に伝わりやすい発表を心

がけるようにする。

教科横断的な取組としては、美術科の「デザイン」で学んだ技能を利用し、販売の際のポスターやチラシを作成したり、技術科の「デジタル作品の設計と制作」で既習したことを発表の際に見やすいプレゼンの作成を行ったりする。また、国語科では起業家や、働いている方、米を購入した方への「インタビュー」やお礼の手紙を書いたりする際に、応用して活用できるように工夫する。

3. 本單元における主体的・対話的で深い学び、学習評価の工夫

○ 主体的・対話的で深い学びの工夫について

会社の設立から部署の分担、部署や会社ごとの販売計画から販売を生徒自身の手で行うようにすることで、主体的に活動できるようにする。

部署や会社での会議を行うことで、自らの考えを相手に伝える表現力を身に付けたり、考えを伝えたりすることができるようにする。また、他者の考えを理解し、協働的に学ぶ力が高まるようにする。

G Tや事業所の方々から学ぶ場面では、学んだ内容から疑問に思ったことや感じたことなどを積極的に質問し、コミュニケーション力を高めることができるようにする。

○ 学習評価の工夫について

評価においては、自己評価力を高めるために、体験や話し合いの後に必ず内容を記録することで自己の考えや表現の変容を自覚させる。発表においては、相互評価を行わせ、他社の表現の良いところや悪いところを学ばせる。

活動の様子の評価については、静止画や動画で記録しておくことにより、生徒の変容がわかりやすくなるように工夫する。「お米ファイル」をつくり、この取組で使用した、ワークシートや、感想、資料などを綴じさせ、パーソナルポートフォリオによる評価も行う。

4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて
不安傾向の強い	仲の良い生徒を同じグループにして、話し合い活動や困った時に助け合うことができるように配慮する。
話し合い活動で、自分の考えがまとまらない、言えない。	グループ活動では、教員が入り、助言や指導を行う。 教員が生徒から話を聞き、生徒の言葉をまとめて整理し書かせたり、言い換えたりする。

5. 目標

課題解決力	<ul style="list-style-type: none">○ 課題を自ら設定し、その解決に向けて、見通しのある計画を立て実行し、状況に応じて改善することができる。○ 調べる活動や体験活動等、様々な方法や手段を工夫しながら課題を追究していくことができる。○ 設定した課題について、各種の情報収集や話し合いを通して解決を図ることで、自己の考えを深めることができる。
協働的に学ぶ力 ・表現する力	<ul style="list-style-type: none">○ 学習の成果を、わかりやすくまとめ、それを表現・発信する方法を工夫することができる○ 他者の多様な考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えることで、コミュニケーションの基本（話す・聞く・見る・感じる）を身に付ける。○ 自分の立場や役割を受け止め、役割を果たしつつ他者と協

	力・協働することができる。
自己を見つめる力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会人として必要なコミュニケーションの重要性に気付き、その力を高めようとしている。 ○ 働くうえで必要な力に気付き、今後自分が高めるべき力を考え、自分の今の姿を見つめ直し、これからの生活に生かそうとすることができる。 ○ 様々な問題や失敗を乗り越えてきた自分を振り返り、今後自分が高めるべき力について考える。

6. 指導計画と評価計画（総時数 33 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ★特別な教育的支援を要する児童・生徒への特に困難とされる場面での支援	評価規準及び評価方法
<p>1. 八児中学校で育てたもち米の残りを、どのように使うか考える。④</p> <p>(1) もち米を販売する目的・意義について考える。</p> <p>(2) 社長が会社を立ち上げる。（起業）</p> <p>(3) 立ち上げた会社で、会議を開き部署を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">立ち上げる部署</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経理 ・ デザイン 記録 ・ マーケティング ・ 企画 開発 </div> <p>(4) 部署ごとに会議を開き、その仕事内容を確認する。</p>	<p>○ 育てたもち米が収穫祭の後も残っていることを伝え、そのもち米をどうするか考えることができるようにする。</p> <p>○ 稲作体験学習は他の中学校にはない貴重な体験活動であることを伝え、販売を通して八児中の活動を伝えたいとすることができるようにする。</p> <p>○ 各部署の役割をあらかじめ生徒に示し、仕事のイメージがもてるようにする。</p> <p>○ 自己の能力や特性と各部署の仕事が求める力を考慮しながら各会社で所属する部署を決めることができるようにする。</p> <p>○ 各部署の仕事内容の概要を説明し、担当する</p>	<p>【課】残っているもち米をどうするか自分の考えをもつことができる。（ワークシート、）</p> <p>【課】各自の課題解決に応じて適切な情報を収集している。（行動観察・ワークシート）</p> <p>【協】部署の役割を理解し、自分に適した部署に就こうとする。（行動観察）</p> <p>【協】各グループでの話合いの活動に意欲的に参加</p>

<p>(5) GT（ゲストティーチャー）を招き，販売に必要な知識・技術を学ぶ。</p>	<p>部署の仕事に対して責任を持つことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社長 企業理念，利益の使い方 ・ 経理 必要物品の購入手続き ・ デザイン 記録 パッケージのデザイン ・ マーケティング 販売場所の開拓 </div> <p>○ 事前に質問を準備することにより，販売について考えることができるようにする。</p>	<p>している。（行動観察）</p> <p>【協】GTの講話や質疑応答を聞きながら販売に向けて計画を会社ごとに考えている。（行動観察，ワークシート）</p>
<p>2. もち米販売に向けた取組（第1期） ⑧</p> <p>(1) 各部署に分かれて活動を行う。</p> <p>(2) 中間報告会に向けて準備をする。</p> <p>(3) 中間報告会を開き，販</p>	<p>○ 必要に応じて，市場リサーチや会社での会議を行い，課題解決を促す。</p> <p>○ ワークシートを工夫し，見通しをもった活動計画を立てることができるようにする。</p> <p>◎他教科との関連 美術科「色の性質」や「ポスターデザイン」で学んだことを参考にし，視認性を意識してポスターやチラシを作成できるようにする。</p> <p>◎他教科との関連 技術科「デジタル作品の設計と制作」で学んだことを参考に，相手に分かりやすく伝える表現活動を充実できるようにする。</p>	<p>【課】販売に向けていくつかの疑問をもち，課題を設定している。（行動観察，ワークシート）</p> <p>【課】課題解決に向けて，見通しをもった計画を立てている。（行動観察，ワークシート）</p> <p>【協】他者とコミュニケーションを深め，異なる意見を受け入れ互いの考えを理解しようとしている。（行動観察）</p> <p>【協】発表内容について，グループで役割分担しながら発表資料を作成している。（行動観察）</p>

<p>売に向けて、各会社の課題を見つける。</p> <p>(4) 中間報告会で得た課題をもとに、今後の取組の計画を練る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パワーポイントを使用して、会社ごとに、商品名、値段、パッケージ等を発表し、これまでの活動してきたことを報告させる。 ○ 会社で考えた販売する上での課題とG Tのアドバイスを比較し、各会社が販売に向けての課題を見つけることができるようにする。 ○ 事前に自分の考えをまとめ、主体的に話し合いに参加できるようにする。 	<p>【協】 聴き手に伝わるように、姿勢、声の大きさに気を付けて発表している。 (行動観察、発表内容評価)</p> <p>【課】 グループで意見を出し合いながら、課題を設定している。 (行動観察、ワークシート)</p>
<p>3. もち米販売に向けた取組(第2期)</p> <p>⑩</p> <p>(1) 部署会議を行い、販売に向けて取り組むことを確認し、実行する。</p> <p>(2) 会社会議を行い、部署ごとの活動報告および決定事項を検討する。</p> <p>(3) 最終的な販売価格、販売場所、内容量、チラシ、ポスター等を決定し、事業所と打ち合わせをする。</p> <p>(4) ポスター貼り、ポスティングなど地域へ広報活動を行う。</p> <p>(5) 商品を完成し、販売に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを工夫し、部署ごとの役割の確認や販売に向けて必要な準備ができるようにする。 ○ ワークシートを工夫し、販売までに決定しておくべき事項が分かるようにする。 ○ 話し合い活動では、なぜそう考えるのか理由を述べることにより、根拠を基に考え、判断できるようにする。 ○ 事前に事業所に訪れるときには交通ルールや公衆道徳、マナーに対する指導を徹底し、安全に十分留意できるようにする。 	<p>【課】 課題を設定し、解決に向けて主体的・意欲的に取り組んでいる。 (行動観察、ワークシート)</p> <p>【協】 他者とコミュニケーションを深めながら、相互理解を図っている。 (行動観察、ワークシート)</p> <p>【協】 ロールプレイングを通して、礼儀やマナーな</p>

<p>向けて挨拶などのロールプレイングをする。</p>	<p>○ 言葉づかいや行動についてのロールプレイングを行い，受け入れ先の事業所に失礼のないようにする。</p>	<p>ど適切な行動がとれている。 (行動観察・発言分析)</p>
<p>4. もち米販売を通して，課題解決を図る。 ⑤</p> <p>(1) もち米販売を実施する。</p> <p>(2) 会社ごとに決算報告会を行い，意見交換を行う。</p> <p>(3) 販売先の事業所，中間報告会でアドバイスを頂いたG Tにお礼の手紙を送る。</p>	<p>◎他教科との関連 国語科「情報を集める」を参考にし，質問の内容や対象を明確にしてインタビューできるようにする。</p> <p>○ 活動中，気付いたことや大変だったこと，嬉しかったこと，自分が変わったことなどをメモに書きとめ，販売後に振り返ることができるようにする。</p> <p>○ ワークシートを工夫し，他の会社(グループ)の報告を聞き，他社の工夫や良い点について理解を深め，情報を共有することができるようにする。</p> <p>◎他教科との関連 国語科「気持ちを込めて書こう」や例文などを参考にし，文章構成や用件，言葉づかいなどに配慮しながら手紙を書くことができるようにする。</p>	<p>【課】体験学習に意欲的・主体的に取り組んでいる。 (行動観察，事業所・お客様からの評価シート分析)</p> <p>【協】インタビュー等を通して，事前の計画に沿って複数の情報を収集している。 (ワークシート分析)</p> <p>【協】異なる意見や他者の意見を受け入れ，互いの考えを理解している。 (行動観察，ワークシート)</p> <p>【協】体験学習を通して，学んだことや考えたこと，これからの生き方に触れながら感謝の気持ちを表現している。 (手紙の内容分析)</p>
<p>5. う米売プロジェクトを通して学んだことをまとめ，発表する ⑥</p> <p>(1) う米売プロジェクトでの活動内容をまとめる。</p>	<p>○ 会社で会議を開き，部署ごとに取り組んだ内容をわかりやすく伝え，情報を共有することができるようにする。</p>	<p>【協】伝えたい内容を相手にわかりやすいように表現している。 (行動観察)</p>

<p>(2) 会社ごとに発表の方法を考え、準備する。</p>	<p>○ 発表方法について既習事項を想起し、実際に体験したことが相手に伝わるような発表ができるようにする。</p>	<p>【協】体験学習を通して、学んだことや考えたこと等、内容を絞って、的確にプレゼンテーションを作成している。 (行動観察, 評価シート分析)</p>
<p>(3) 最終報告会を実施する。〈本時〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発表のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗から学んだこと ・活動の記録と各部署の反省 ・販売当日 & 失敗したこと ・頑張ったこと ・失敗したこと 成功したこと ・驚いたこと 学んだこと </div>	<p>○ 評価アンケートやワークシートを工夫し、発表を見たり、聞いたりすることで、相互に理解を深め、情報を共有することができるようにする。</p> <p>○ 発表を通して取組について振り返り、体験したことを「自らの将来の生き方」という視点で考え、経験化できるようにする。</p>	<p>【協】聴き手に伝わるように、姿勢、声の大きさに気を付けて発表している。 (行動観察, 発表内容評価)</p> <p>【自】う米売プロジェクトを通して、体験したことを経験化できている。 (ワークシート, 発表分析)</p>
<p>6. 学んだことを振り返り、自己の生き方を考える。③</p> <p>(1) これまでの学習活動を振り返り、これからの自分の在り方や将来について考える。</p>	<p>○ G T の講評や教師の振り返りを通して、今回の学習で経験したことが、「やればできる」という自尊感情やチャレンジ精神につながることを気付くことができるようにする。</p>	<p>【自】今後、自分自身が伸ばすべき資質や能力について、残りの学校生活と関連させながら自分の考えを述べている。(ワークシート分析)</p>

7. 本時の学習 令和元年7月11日(木) 第4・5校時 体育館

- (1) 主眼 う米売プロジェクトの活動を振り返り、各会社でテーマに沿った発表を行ったり、他社の発表を聞いたりする活動を通して、働くうえで必要な力を考えることができるようにする。
- (2) 準備 PC プロジェクター 学習プリント
- (3) 展開

<p>主な学習活動・内容</p>	<p>○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法)</p> <p>★ 特別な教育的支援を要する児童・生徒への特に困難とされる場面での支援のポイント</p>
<p>1. う米売プロジェクトの販売を振り返り、前時までに取り組んできたことを確認する。</p> <p>2. 本時のめあてと活動の流れを確認する。</p>	<p>○ 稲作実行委員の指示により、発表者が主体的に進めることができるようにする。</p> <p>○ 発表を聞く時のポイントを示すことにより、自己の課題と関連させて考えることができるよ</p>
<p>めあて う米売プロジェクトの活動を振り返り、私たちに必要な力は何かを考えよう。</p>	
<p>3. 会社(グループ)ごとに、テーマに沿った発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表時間 5～7分 ・会社で話し合い 3分 ・発表方法は会社ごとに異なる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">発表のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗から学んだこと ・活動の記録と各部署の反省 ・販売当日&失敗したこと ・頑張ったこと ・失敗したこと 成功したこと ・驚いたこと 学んだこと </div> <p>4. 会社に出された質問や意見をもとに、私たちに必要な力を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GTからアドバイスをもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>私たちに必要な力 例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力 ・先を見通す、計画力 ・相手の立場になって考えること </div>	<p>○ 発表を見たり、聞いたりすることで、相互に理解を深め、情報を共有することができるように、ワークシートを工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">発表の手順</p> <p>会社の発表 → 個の意見を、 自社内で伝える → 会社でまとめ、全体に伝える。 質疑応答などはこの時に行う。</p> </div> <p>【協】聴き手に伝わるように、姿勢、声の大きさに気を付けて発表している。(行動観察、発表内容評価)</p> <p>○ 各会社の話し合い活動をより深め、充実した発表にするために、司会、記録、発表者の役割を決めておく。</p> <p>◎ 質問及び意見に段階をふまえ、個、会社(グループ)、全体の順で考え、話し合いの場を設けることにより、対話的な活動の充実を図るようにする。</p> <p>★ 授業者(学年職員)が机間巡視し、助言及び支援することにより、発表や話し合いの内容の理解を促す。</p> <p>【自】う米売プロジェクトを通して、体験したことを経験化できている。(ワークシート、発表分析)</p>

5. 本時の授業を振り返り、授業の感想を書いて発表をする。

○ 働くうえで必要な力を、これからの学校生活とどう結びつけていくのかを考えることを伝え、次時の見通しがもてるようにする。

ご指導のほどよろしく願いいたします。